

神奈川・二宮町の小中一貫教育

①

小中一貫教育に力を入れる神奈川県二宮町。9年間を通して育てたい目指す子ども像を設け、本年度から全小・中学校（小学校3校、中学校2校）で教育活動の足並みをそろえた。保護者や地域と連携の下、基盤に置くのは一人も見捨てない受容的な学

一人も見捨てぬ学級・学習集団へ

9年間の活動そろえる

同町では令和元年度、全小・中学校がコミュニティ・スクールになった。それと併せ、小中一貫教育を推進し、学校を中心に町全体で子どもを育てるという方針を掲げた。その際、課題だったのは、小・中の教員が同じ目線で子どもを丁寧に見取っていくことだった。

そこで重点に置いたのは9年間の連続性・系統性を考慮した共通性と一貫性のある指導・支援。柱として①資質・能力を育成する主体的・対話的で深い学び②郷土愛を育む総合的な学習の時間③外国語教育の充実の三つを設定した。このうち、小・中で同じスタイルで取り組める「主体的・対話的で深い学び」に着目。新学習指導要領で資質・能力

深い学び「対話的」を重視

を育む授業改善のキーワードにもなっていたためだ。県教育事務所長や小学校校長などの経験者から「教育の根幹にあるのは『思いやり』と考えるべきこと。また、自分なりの考えを表現できない子どもは多い。その一方で、自分の考えを相手に伝えるという表現力などには課題が見られた。

同町は、温暖な気候などから元気な高齢者が多く住む「長寿の里」として知られる。地域の高齢者を含め、町の人たちや異学年交流などの触れ合いで生まれる絆。森教育長は「相手を思いやる力の源」と指摘する。学習活動では、特に「対話的」の部分を重視。吉新

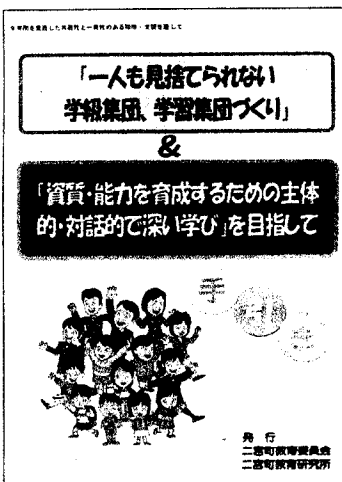


山西小学校では実践を重ねるにつれ、子どもたちの学びに向き合う姿勢が変わったという

教委が手引作成

吉新元校長が同町の教育に関わるきつかけになったのは、清水広・二宮町教育研究所研究員から連絡があったこと。二人は教諭時代に勤務したロンドン日本人学校で同僚だった間柄。清水研究員が二宮中学校の研究主任だった時、たまたま手にした書籍で、川崎小学校で活躍する吉新元校長の姿を知ったという。

それをきっかけに連絡を取り合い、町内の教員に声を掛けて川崎小学校の研究発表会にも参加するようになった。資質・能力の育成に



「手引き」には全員挙手や話し合い、資質・能力などが扱われている

変容が見られ、本年度から全小・中学校で実施する後押しにもなったという。

二宮町教委では、まず基礎・基本的な教師力を身に付けようと、各学校の足並みをそろえるために、これからの時代に必要な資質・能力を備えた子どもの育成に

に着目した新学習指導要領を先取りした研究で、教師力の基礎・基本を育てることに重点を置いた内容だった。授業を参観し、積極的に話し合う子どもの姿や1年生でも自分たちの力で学習ができることなどに驚きの声が上がったという。

令和元年度には校長会が主体となり、小・中学校の校長たちが川崎小学校を視察。その素晴らしい感銘を受けた一人が山西小学校の藤田和久校長だった。「学校研究として取り組みたい」と表明し、昨年度から吉新元校長がアドバイザーとして校内研究に携わっている。短期間で子どもたちに

令和元年度には校長会が主体となり、小・中学校の校長たちが川崎小学校を視察。その素晴らしい感銘を受けた一人が山西小学校の藤田和久校長だった。「学校研究として取り組みたい」と表明し、昨年度から吉新元校長がアドバイザーとして校内研究に携わっている。短期間で子どもたちに

応募用紙（ホームページからダウンロード）、ビオトープの様子が分かるカラー写真、活動の様子が分かる資料（学校・園単位）▷賞：文部科学大臣賞、環境大臣賞、国土交通大臣賞、ドイツ大使館賞、日本生態系協会会長賞など▷（公財）日本生態系協会▷「第3回中学生オンライン英語スピーチコンテスト」（7月25日締め切り）▷テーマ「海外の人に紹介したい、わたしの学校の行事」▷対象：中学生▷海外の人に紹介したい、体験してほしい学校行事について英語で3分間スピーチをする（スマホで撮影可）▷一次選考結果発表

端末巡る自主研修で同僚と交流

のは、想定外のこと起きた時。その対処法についても話し合いながら考えを共有し

反

も希望する場合は申し込み締め切り▷078

イベント

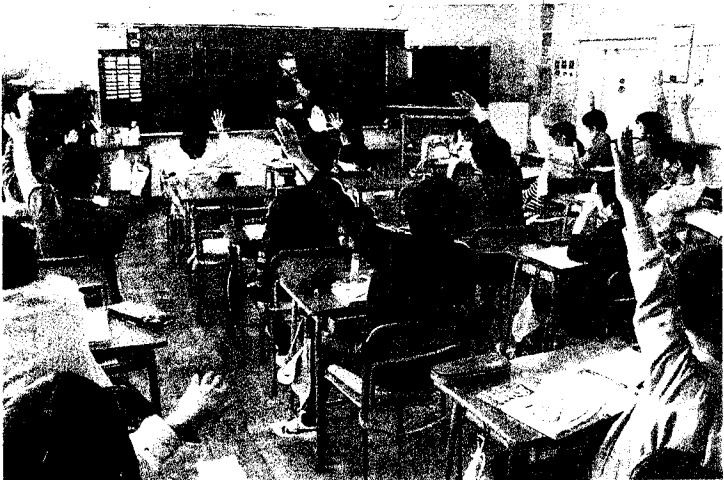
技術センター（YCA）▷ビゲーターキャン（7・8日）▷同センタースタジオA（山）▷18歳以上▷1日リターナーになるため2日目「鑑賞のためリターナー」（伊達隆洋）▷参加

下

先行実施の山西小学校

「全員拳手」などで手応え

「6つの手立て」の中にある「全員挙手」。子どもたちの学習参加などを促す働きもある。



吉新・元川崎市立川崎小校長を指導・助言役に

「こちらの方が面積は広いですか？」

山口稯総括教諭がそう問い掛けると、子どもたち全員が手を挙げる。5年生の算数の授業で、「直方体と立方体のかさ(体積)」を扱う導入場面だ。まず面積の概念を確認した理由について、「レディネステストの結果などを踏まえ、最初から教科書通りに体積を比べるのは難しいと判断した」と話す山口総括教諭。

「学習参加や全員参加を促す工夫だった」とも打ち明ける。

その後、本時のメインとなる直方体と立方体の体積を比べる問題に取り組んだ。授業後、「『底面積の幾つ分』の概念を、きちんと理解しないままに進めたのは課題だった。この部分をクリアできれば、子どもの話し合いはより活発化したのでは」と、山口総括教諭は振り返る。

同町では、小中一貫教育に力を入れて取り組んで

いる。柱の一つは「資質・能力を育成する主体的・対話的で深い学び」の推進。吉新元校長の指導・助言を受け、その実現につなげようと「6つの手立て」をまとめた。町で先行し、研究に取り組んでいる同校。山口総括教諭が取り組んだ「全員挙手」も、その一つだ。

「昨年度は「6つの手立て」を取り入れ、学年ごとにとそれを扱うかを決めて実践を重ねた。コロナ禍が続く中でも、「本年度は研究授業を各ブロックで3本は行いたい」と語る研究主任の藤間咲子教諭。「教員一人一人の授業公開も行い、レベルアップをさらに図りたい」と思いを明かす。

「全員拳手」などに取り

教員は意欲的に授業改善

組むことに対し、「その成の機能を一層高めている」果に半信半疑だった教員も、とも指摘する。

いた」と言う藤田校長。吉新元校長からの「だまされたい」と思つて粘り強く取り組めば、子どもも教師も変わる」という言葉を信じて進めてきたという。実践を積み重ねるにつれ、教員から授業改善につながるさまざまなアイデアが生まれ、積極的に授業に参加しようと

「全員挙手」に関しては、「大人になって社会に出た時に、発言や意見ができない人は組織の中で取り残されてしまう」と話す吉新元校長。そのため、「子どもに必要な資質・能力を見据え、その取り組みのねらいや目的を知っておくことが大切だ」と言う。

して挙手する子どもも増えた。

ターニングポイントとは、こうした手応えを感じ始めた頃。「教育」と向き合う教師集団の姿勢や態度も変わっていった。成果の一つは、子どもの問題行動が激減したこと。同校に長く勤務する藤田校長は「こんなことは初めて」と驚きを隠る。

挙手ができるようになれば、子ども同士が相互指名しながら話し合いの充実にもつながっていく。「知識・技能に加え、これからの社会では『対話力』が一層求められる」と話す森英夫教育長。「全員挙手」を含め「6つの手立て」は、全ての教科等で応用もできるとしている。

せない。「学級や学年、学校全体が良い雰囲気になっている」とも話す。

また、教員一人一人が取り組みたい各教科等の授業研究を行いやすい基盤づくりにもなっている。授業に関わる取り組みなどに関しては、藤田校長がコメントでフィードバックすることを心掛けている。吉新元校長は「校長のリーダーシップが『チーム学校』として

同町としての取り組みはまだ始まったばかり。同校の成果や課題などを共有し、町全体の教育力の向上につなげていく。その手だてとして「二宮町小中一貫教育だより」を発行し、早体的な取り組みや成果などを紹介するようにもしている。

問い合わせ「二宮町教委」
☎0463・75・9261

「主体的・対話的で深い学び」を実現する
「6つの手立て」



「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげる取り組み

指導方向

教師のワザ

⑤

の授業

指導力向上

教師のワザ

⑤

授業の

うあ
るよ
ども
した。
担任
す。
みた
もた
りて